

「JAバンク茨城子ども食堂応援成」活動報告書

活動名	子ども食堂れんの活動運営事業
団体名	特定非営利活動（NPO）法人 子ども食堂れん
この活動で取り組んだ地域の課題や背景（※）	国民生活基礎調査（2018年）や国勢調査（2020年）を見ると、北茨城市におけるひとり親家庭の相対的貧困は、総人口約4万人のうち2000人ほどいると推定できます。また、これまでの親御さんとのお話でも、もっと会話する時間や場所が欲しいという声がたくさんあり、さらには胸の内に秘めていたであろう生活の大変さ、具体的には、学校に行けていないため給食が食べられない、育ち盛りなのに食費が足りずにお腹を満たせてあげられない、冷蔵庫の中に食べ物が何もないなどのお話が少なくありません。ましてやお菓子や果物といった楽しみはなかなか手の届かないご家庭が少なくありません。子どもたちやその親御さんたちが、家庭環境などに関わらず自立した生活を送れるようにする取り組みが必要です。
この活動の目的（※）	家庭の事情や仕事の都合などに左右されずに、誰もが豊かに充実して自立した生活を送れるようにすること。
活動の対象（※）	ひとり親家庭、困窮家庭、欠食が続いているご家庭など
実施内容	<p>場所：大津町北町 3342（旧レストランアマンプリ）</p> <p>実施日：</p> <p>運営体制：ボランティアスタッフ 4～11名/回</p> <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フードパントリー：お弁当を作り、参加者に配布する。子どもだけでは開催場所まで来られないご家庭や、地区で取りまとめをしている場所へは配達する。 ・共食型の子ども食堂：感染症対策を万全にして、お弁当を取りに来た方がその場で食べられる場所を提供し、他の方との交流を促す。 ・季節ごとのイベントの開催：文化や風土を感じてもらうための催し事。たとえば、こどもの日／夏祭り／ハロウィン
活動実施後の成果	<p>食の支援を通して参加者からは「本当にありがとうございます」と言っていたいています。長期休みに合わせたフードパントリーのおかげで、「給食がない時期でも子ども達にご飯を食べさせられます」との声もありました。また、参加者からのSOSは度々あります。フットワークの軽さを活かして、そういった声に応えることができました。</p> <p>季節のイベントに参加したご家庭からは、「仕事で縁日に参加できなかったため、子どもたちが楽しんでいる様子が見れて嬉しかった」「その季節らしいイベントを体験させてあげられて感謝しています」などのお言葉をいただきました。普段の生活ではなかなか得られない体験を提供できました。</p>

※ 申請書から転記いただいて構いません。

